

技術フォーラム ニュース

シンポジウム：[テーマ] ゴッホの部屋の日々

日時:平成 26 年 2 月 22 日(土)10:00~11:45

場所:港区新橋生涯学習センター 303 号室

講師:中西 繁 氏

洋画家

高知県観光特使

司会:岡 孝 夫

主宰者挨拶

技術フォーラム理事長 原田 敬美 工博、技術士

本日の講演テーマは、中西氏の「パリ ゴッホの部屋の日々」です。お招きした中西氏は大学の建築学科の出身ですが、画家としての才能に恵まれ、パリに留学した時のお話しです。欧米ではビジネスマンでも政治家でも芸術の話が出来ないと教養ある人間として仲間に入れてもらえません。その意味で我々技術者が芸術に興味を持つことも大切なことと思います。



本日はゴッホのパリでの活躍を中心にお話いただくことになり、楽しみにしております。

司会者(岡氏)

講師中西氏の経歴を紹介します。

1946 年:東京・神田に生まれる

1969年3月:東京理科大学工学部建築学科卒業

1982 年:第 14 回日展初入選

1985 年:第 51 回東光会会友賞

1988 年:現代洋画精鋭選抜展銀賞 東光会会員推挙

1990 年:第 56 回東光会会員賞 現代洋画精鋭選抜展金賞

1993 年:東光会審査員

2001 年:第 33 回日展「棄てられた島 2001」特選

2002 年:文化庁主催第 36 回現代美術選抜展出展
アートミュージアム銀座・個展「棄てられた町」
横浜赤レンガ倉庫 1 号館・個展「廃墟からの再生」

2004 年:8 月から 2 年間パリ留学モンマルトルゴッホの部屋をアトリエとする。

2005 年:第 37 回日展「DOCK」特選

2006 年:帰国後「廃墟と再生」展 各地巡回

2007 年:日展委嘱 東光会理事・常任審査員

2013 年:東光会退会、日展退会、無所属
全国 11 都市「廃墟と再生」展終了
現在は無所属で活躍されております。
それでは講演をよろしく願います。

講演要旨:

本日の講演者中西繁氏は、大学卒業後コンサルタント会社で建築設計を担当し、同時に油絵制作も行っておりましたが、2000年に画家として独立され、2004年から2年間フランスに留学し、フランス国立美術学校でデッサンの勉強をされました。パリで不動産屋を営んでいる友人から、ゴッホの住んでいた部屋を買うので、借りてくれと頼まれ、家賃400万円プラス2000万円分の絵を寄付することが条件で、ゴッホの部屋を借りました。ここで絵の勉強と制作を行いました。また、ゴッホの研究もされました。この間パリ中を歩き、プロバンス、ブルターニュ、ノルマンディ、オランダ、ベルギー、ニューヨークを旅しました。本日は沢山のスライドを使って説明して下さいました。

A:ゴッホが生まれたズンデルト

フィンセント・ウィレム・ファン・ゴッホは1853年3月30日ベルギー国境に近いオランダのズンデルトの牧師の家に生まれました。牧師の家の前には市役所がありました。ゴッホの若いころは宣教師になることを目指していました。

B:ゴッホが2年間住んでいたモンマルトル

ゴッホ30歳。1886年3月1日パリに突然来て弟テオの部屋に転がり込みました。6月にモンマルトルルピック通り54番地のアパートマン4階の部屋と一緒に転居します。近くにはムーランルージュやキャバレー、風車のレストランなどがありました。ここで、印象派や浮世絵の影響を受けました。タンギー爺さんの店は画商兼画材商で多くの印象派の画家と出会いました。また弟テオはオランダの美術商ゲーベル商会のパリ支店に務めていました。ゴッホとテオはBing 商店で3000枚とも言われている浮世絵を買い集めました。



C:ゴッホの部屋

リビングの隣の部屋をテオの寝室、中庭側の部屋をアトリエに、真ん中の書斎をゴッホの寝室としていたとテ

オの妻の手紙に書かれています。当時は水道が上層階まで来ていなかったの、1階で料理人が作って部屋に運んだと考えられます。

部屋の窓からの風景を4点描きました。窓からは当時の建物が現在でも確認できます。

D:パリでの制作

パリではデッサンの勉強をし、モンマルトルやアニエールの風景や花、静物、人物など200点余りの絵を描きました。また、ロートレック、シニャック、ピサロ、モネ、ドガ、シスレー、ゴーガン等と知り合いました。ゾラやモーパッサン、ゴンクール兄弟、ディケンズなどの文学にも深く接しました。

E:アルルへ

1年半後の1888年2月19日「日本の様に明るいところへ」とアルルに移ります。駅近くに2階建ての大きな家(黄色い家)を借りて、画家の生活共同体を作ろうとしました。ゴーガンと呼びます。ゴーガンは弟テオの経済的支援を期待して、10月23日にやっとアルルにきました。ゴーガンを迎える歓迎の絵が一連のひまわりの連作です。二人は袋用の麻布を手に入れ、それを切ってキャンバスとしました。しかし、ゴッホとゴーガン関係はすぐに険悪になり、二人の関係は長く続かず2か月でゴーガンは出て行きました。このとき自ら耳を切りました。これは聖書に記された「ゲッセマネの事件」に従ったものであり、ゴッホの宗教的意識がそうさせたものと解釈されます。そして、自ら精神病院に入りました。これはいわゆる精神病ではなく鬱の状態と思われます。この間に印象派から象徴主義に変化して行きます。「種まく人」「刈る人」「掘る人」シリーズ。「糸杉」「星月夜」など沢山の絵を描きました。

F:終焉の地 オーヴェール・シュル・オワーズ

1890年5月18日、アルルからパリ経由、ピサロから紹介されたガシェ医師の診察を受けるため、オーヴェール・シュル・オワーズに向かいます。ラヴー亭と云うレストランの3階の屋根裏部屋に住みます。ここはオーヴェールの市役所の真ん前。ゴッホはズンデルト市役所の真ん前で生まれ、オーヴェールの市役所の真ん前で死ぬこととなります。オーヴェールで70日間に70枚の油絵と300点のデッサンを描いて7月27日ピストル自殺を図ります。7月29日午前1時半テオなどに看取られながら逝去。37歳でした。ゴッホのポケットにはテオへの最後の手紙が入っていました。

ゴッホは生前1枚しか売れなかったように、ほとんど無名でしたが、清らかで、真摯な人物で貧しい人々に温かく接した人物でした。

G:ゴッホの死後

ゴッホの絵は生前1点しか売れませんでした。他の全ての絵は弟テオが保管していました。ゴッホ

の絵は当時としては前衛的で理解されませんでした。が、死後数十年経って爆発的に評価が上がり、今では1点数億円以上の価格が付きます。

1901年:ゴッホが死んで11年後、パリ・ベルネム・ジュエヌ画廊で最初のゴッホ展

1910年:日本では「スバル」「白樺」で初めて紹介される。

1913年:クレラー・ミュラー夫人がゴッホの絵を買占め美術館をハーグに開館(ゴッホ作品275点)

1914年:テオの妻ヨハンナ「ゴッホの手紙」を出版

1938年:オッテルローに、国立クレラー・ミュラー美術館として再スタート

1951年:劇団民芸「炎の人」(滝沢修主演・新橋演舞場)

1956年:映画「炎の人」カーク・ダグラス主演

1958年:東京国立博物館「ゴッホ展」

1973年6月:アムステルダム・ファン・ゴッホ美術館開館

1976年:国立西洋美術館他「ゴッホ展」

以後1985年、1995年、2005年開催

2013年:ゴッホ展「空白のパリを追って」開催

ゴッホの生涯は652通の弟テオへの手紙をはじめ、多くの手紙が有るため、かなり細かく解っています。

しかし、公開されているゴッホの手紙はテオの妻ヨハンナにより墨で消されていました。アムステルダム・ゴッホ美術館がX線等で7年間かけて解読し、近年それが出版されました。

なお、中西繁氏は2013年にエッセイ「ゴッホの部屋の日々」を発刊しています。その「あとがき」を記します。

2年半前の銀座での個展「欧州の旅Ⅱ」は3.11大震災の2日後からの開催という中であったが奇跡的に設営も出来、無事日程を終えることが出来た。震災が身近と考え方に大きな変化をもたらしたのは誰しもの事だろう。

4月には高知での「再生と廃墟」展。昨年4月には沖縄で2回目の展覧会を開催して頂いた。そうした中で広島展が計画されることになって、また、多くの方々のお手を煩わしこの8月に迎える。全国11都市、12回の開催になる。これでひとまず「廃墟と再生」展は終了する。

昨年の末いろいろ考えた結果、絵画団体から全て身を引いた。短い人生だから最後はなるべく自由にやりたい。震災後「微力だが無力で無い」という言葉が心に残った。残りの人生を効果的に過ごしたい。余りにも慌しくやってきたので少しは身近も整えたい。

このエッセイ集もその結果ということだろう。絵もそうだが文章はきりが無い。きりがなく、けりもつかないことを齷齪やっている。

以上

1) 監査、研修講師派遣等実績

業務実績のある自治体等							
昭島市、 板橋区、 鹿沼市、 寒河江市、 逗子市、 栃木市、 函館市、 前橋市、 山形市、 秦野市・伊勢原市環境衛生事務組合	あきる野市、 磐田市、 川越市、 三条市、 裾野市、 富里市、 秦野市、 町田市、 和光市	旭川市、 牛久市、 清瀬市、 相模原市、 墨田区、 長岡市、 八戸市、 三鷹市、 寒河江市	足利市、 江戸川区、 桐生市、 寒川町、 草加市、 新座市、 八王子市、 水戸市、 大和市	厚木市、 大田区、 小金井市、 上越市、 袖ヶ浦市、 西東京市、 東根市、 武蔵野市、 二十三区清掃一部事務組合	足立区、 太田市、 国分寺市、 常総市、 館林市、 日光市、 東村山市、 目黒区	荒川区、 青梅市、 小平市、 渋谷区、 調布市、 練馬区、 日野市、 守谷市	伊勢崎市、 鎌倉市、 狛江市、 杉並区、 所沢市、 野田市、 藤沢市、 八千代市
技術監査・工事技術調査等の実績分野							
建築工事(設計、建築、電気、機械、空調) 土木工事(道路、橋梁、河川、立体道路、駐車場、公園、競技場) 上下水道(上水道、下水道、管渠、調整池) 環境(清掃工場) 情報(清掃組合の情報システム) 業務監査(工事契約手続き、不正発注実態調査) 情報(システム監査研修講師派遣) 監査委員研修(東京 26 市、茨城県内自治体、静岡県内自治体、新潟県内自治体) 技術職員研修(町田市、東京26市)							

2) 当会会員による関連雑誌記事、新聞記事、書籍等

1	「事業の無駄を斬る！技術専門家の目・総論編、建設編、環境編、情報編」 原田敬美、根本泉、高堂彰二、田吹隆明 月刊「地方自治職員研修」 2006 年 1 月号～4月号まで連載、公職研
2	「談合の根絶 外部監査で公正性確保」 原田敬美 読売新聞「論点」 2006 年 3 月 2 日
3	「私の官民協働のまちづくりー東京港区長奮闘記」 原田敬美 学芸出版社 2006.9.10 発行 ISBN4-7615-1217-2
4	「技術には専門の監査が必要だ！」 NPO 地域と行政に支える技術フォーラム [編著] R&B ブックス 日刊工業新聞社 2009.7.15 発行
5	『重要性高まる技術内容の「監査」技術士の視点での設計・積算・施工の問題点をチェック』 日経コンストラクション 2009.11.27 号 66 ページから
6	「新潟県都市監査委員会定期総会での講演(タイトル:技術の専門区長から見た監査活動への期待)」 原田敬美 上越タイムス 2013 年 5 月 22 日
7	「経営に役立つシステム監査ー事業リスク分析評価～改善提言」 小佐野市男 日刊工業新聞「課題に挑む技術士のソリューション」 2013 年 6 月 11 日

3) 当会主催のシンポジウム抜粋

1～22	当会ホームページをご覧ください。(http://www.efscs.jp/)
23	「国土のリスクマネジメントを考える」 2013 年 2 月 23 日(土) 港区立新橋生涯学習センター
24	「海外工事のリスク管理」 2013 年 5 月 25 日(土) 港区立赤坂区民センター
25	「民間開発郊外住宅地について ～多摩田園都市を事例として～」 2013 年 8 月 31 日(土) 港区立新橋生涯学習センター
26	「合意形成のプロセスデザイン」 2013 年 11 月 30 日(土) 港区立新橋生涯学習センター
27	「ゴッホの部屋の日々」 2014 年 2 月 23 日(土) 港区立新橋生涯学習センター

技術フォーラム 活動予定

1) 監査、研修講師派遣等予定(抜粋)(H26.3月31日現在)

	対象工事	分野	年月
1	某市	工事技術調査(建築)	平成26年4月
2	某市	工事技術調査(建築)	平成26年5月
3	広域行政団体	技術研修	平成26年6月
4	某区	工事技術調査(建築・土木)	平成26年5月～

2) シンポジウム予定

今回のシンポジウムを以下にて開催します。

テーマ:最近における港湾及び海運の話題

講師:田村 伴次 氏

日時:平成26年5月31日(土)10:00～12:00

**場所:港区立新橋生涯学習センター
(新橋駅徒歩1分)**

当シンポジウムへの参加ご希望の方は、氏名、所属を明記の上事務局へ

FAX:03-3404-0734

メール:info.efasca@efasca.jpまでご連絡ください。

3) 1日監査に関するパンフレット

情報と環境に関する1日監査のパンフレットがあります。御希望される機関はお申し付けください。

4) その他定例会活動予定

月例会

日時:毎月第2土曜日 10:00～

場所:港区立生涯学習センター

会員であれば、どなたでも自由に参加できます。

5) 会員種別

当会の会員は以下により構成されています。

☆ 正会員 (年会費¥5,000)

☆ 研究会員 (年会費¥3,000)

6) 当会ホームページのご案内

技術フォーラムの活動は、ホームページで詳しくご覧になれます。[\(http://www.efasca.jp/\)](http://www.efasca.jp/)

このニュースレター1号～25号についても、ご覧いただけます。

編集後記

当 NPO 法人では、3カ月に1回実施しているシンポジウムの内容を広く皆様に知ってもらうことを大きな目的に、年4回「ニュースレター」を発行しています。今月号は2月に実施したシンポジウム「ゴッホ部屋の日々」と題して洋画家の中西繁氏にご講演いただきました。中西氏がゴッホと同じ画家として同じ部屋に住んだ繋がりにも興味がありましたが、原田理事長が言われるよう欧米ではビジネスマンでも政治家でも芸術の話が出来ないと仲間に入れてもらえない。とのことから、今回の講演は技術士にとっても、教養を養う良い機会でありました。

今後とも、皆様方の声をもとに講演内容を考えて行きたいと思えます。講演内容につき、ご要望がある場合は、ぜひ下記ニュースレター事務局までお寄せください。その他のニュースレターに関してのご意見、ご要望も下記ニュースレター事務局までご連絡ください。

ニュースレター事務局: oka@cea.jp

特定非営利活動法人 地域と行政を支える技術フォーラム

TEL 03-3403-2325

〒106-0032 東京都港区六本木 3-14-9 妹尾ビル4階

理事長 原田 敬美